

第 85 回日本医学会定例評議員会

平成 30 年 2 月 28 日 (水) 於：日本医師会館小講堂

午後 2 時開会

議長(門田守人日本医学会長) 定刻になりましたので、第 85 回日本医学会定例評議員会を始めたいと思います。この評議員会は過半数をもって成立ということになっていますが、今から 5 分前ですが 73 学会、その段階でもう 57% の出席ということですが、その後も来ていただいていますから、それ以上の出席ということでこの会は成立しています。ただ今から定例評議員会を開催いたします。

評議員会の議長は学会長になるということが日本医学会規則第 13 条で決まっていますので、門田が議長として進行させていただきます。

日本医師会長挨拶

議長(門田日本医学会長) はじめに、日本医師会の横倉義武会長にご挨拶をお願いします。

横倉日本医師会長 皆様、こんにちは。ご紹介いただきました日本医師会の会長をしております横倉と申します。どうぞよろしく申し上げます。日本医学会の定例評議員会の開催にあたりまして、一言だけご挨拶させていただきます。

はじめに、日本医学会ならびに各分科会が、わが国の医学および医療の水準の向上に向けて平素より多大なるご尽力をされていますことに、心より敬意を表する次第です。

ご承知のとおり、日本医師会の活動においては、日本医学会と協力しながら行っているものが多々ございます。日本医師会のさまざまな委員会に日本医学会の役員の方にご出席いただいて、学術的な視点から貴重な意見をいただいています。また、医療事故調査等の支援団体の中央会議がございますが、先日行われたその会議におきまして

も役員の方にご参加いただき、現状の把握と医療事故の調査の認識の共有や、意見交換などをさせていただきます。

また、来年の 4 月に開催を予定されています第 30 回の日本医学会総会におきましては、齋藤会頭をはじめとする総会役員の皆様方のご尽力によって、大変興味深いプログラムが組まれています。2 月から登録も始まったとお聞きしていますが、この総会には日本医師会の会員が 1 人でも多く参加していただけるように、主務機関である愛知県医師会と一丸となり登録推進に向けた努力を惜しまないつもりです。

日本医学会は法人格を持つ組織としての活動が必要なことから、一般社団法人日本医学会連合を平成 26 年に立ち上げて活動を始められ、年々活発な活動を続けられています。日本医師会としましては、引き続き日本医学会および日本医学会連合と協力しながら、日本の医療学問的進歩を国民の皆様にご提供するべく、たゆまない努力を続けてまいりたいと思います。

日本の医療・医学をリードする学術専門団体として、今後も相変わらずの車の両輪として共に協力させていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

また、私は昨年 10 月から世界医師会の会長に就任しています。今、114 か国の医師会が加盟をしてさまざまな学術交流の場があります。先日も WHO の中で、リハビリテーションのいろいろな検討会がありました。それにも日本リハビリテーション医学会の理事の方にご出席を賜り、医師の立場からの意見を述べていただいたというところで。

第 85 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本胸部外科学会	大北 裕	日本東洋医学会	佐藤 弘
日本解剖学会	寺田 純雄	日本脳神経外科学会 (連)	齊藤 延人	日本小児神経学会	岡 明
日本生理学会	(連)赤羽 悟美	日本輸血・細胞治療学会 (代)	牧野 茂義	日本呼吸器外科学会	千田 雅之
日本生化学会	嶋田 一夫	日本医真菌学会	坪井 良治	日本医学教育学会 (代)	小西 靖彦
日本薬理学会	吉岡 充弘	日本農村医学会	新谷 周三	日本医療情報学会	大原 信
日本病理学会	(連)坂元 亨宇	日本糖尿病学会	植木浩二郎	日本疫学会	(連)井上真奈美
日本癌学会	(連)間野 博行	日本矯正医学会	新妻 宏文	日本集中治療医学会	(欠)
日本血液学会	(連)木崎 昌弘	日本神経学会	(欠)	日本平滑筋学会	羽生 信義
日本細菌学会	(欠)	日本老年医学会	楽木 宏実	日本臨床薬理学会 (連)	松本 直樹
日本寄生虫学会	(欠)	日本人類遺伝学会 (連)	要 匡	日本神経病理学会 (連)	渡部 和彦
日本法医学会	青木 康博	日本リハビリテーション医学会 (欠)		日本脳卒中学会	宮本 享
日本衛生学会	(連)西脇 祐司	日本呼吸器学会 (欠)		日本高血圧学会 (代)	市原 淳弘
日本健康学会	(連)豊川 智之	日本腎臓学会 (欠)		日本臨床細胞学会	青木 大輔
日本栄養・食糧学会 (代)	飯田 薫子	日本リウマチ学会	山本 一彦	日本透析医学会 (連)	武本 佳昭
日本温泉気候物理医学会 (欠)		日本生体医工学会 (欠)		日本内視鏡外科学会	渡邊 昌彦
日本内分泌学会 (代)	鈴木 眞理	日本先天異常学会 (連)	黒澤 健司	日本乳癌学会	中村 清吾
日本内科学会	滝川 一	日本肝臓学会	泉 並木	日本肥満学会	小川 涉
日本小児科学会 (連)	宮田 章子	日本形成外科学会	中塚 貴志	日本血栓止血学会 (連)	小亀 浩市
日本感染症学会 (連)	二本 芳人	日本熱帯医学会	狩野 繁之	日本血管外科学会	古森 公浩
日本結核病学会 (連)	齋藤 武文	日本小児外科学会	越永 従道	日本レーザー医学会	古川 欣也
日本消化器病学会 (連)	一瀬 雅夫	日本脈管学会	重松 宏	日本臨床腫瘍学会 (連)	向原 徹
日本循環器学会 (代)	宮内 克己	日本周産期・新生児医学会	和田 和子	日本呼吸器内視鏡学会	金子 公一
日本精神神経学会	神庭 重信	日本人工臓器学会	妙中 義之	日本プライマリ・ケア連合学会 (欠)	
日本外科学会	大木 隆生	日本免疫学会	松島 綱治	日本手外科学会	三上 容司
日本整形外科学会	山崎 正志	日本消化器外科学会	矢永 勝彦	日本脊椎脊髄病学会 (欠)	
日本産科婦人科学会	藤井 知行	日本臨床検査医学会	矢富 裕	日本緩和医療学会	細川 豊史
日本眼科学会	大鹿 哲郎	日本核医学会	橋本 順	日本放射線腫瘍学会	茂松 直之
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本生殖医学会 (代)	升田 博隆	日本臨床スポーツ医学会 (欠)	
日本皮膚科学会	天谷 雅行	日本救急医学会	横田 裕行	日本熱傷学会	齋藤 大蔵
日本泌尿器科学会 (欠)		日本心身医学会	福土 審	日本小児循環器学会	坂本喜三郎
日本口腔科学会	丹沢 秀樹	日本医療・病院管理学会	上條 由美	日本睡眠学会 (欠)	
日本医学放射線学会 (代)	立石宇貴秀	日本消化器内視鏡学会	田尻 久雄	日本胃癌学会 (欠)	
日本保険医学会	西川 征洋	日本癌治療学会	林 隆一	日本造血細胞移植学会 (欠)	
日本医療機器学会	安原 洋	日本移植学会	江川 裕人	日本ペインクリニック学会	小川 節郎
日本ハンセン病学会 (代)	石田 裕	日本職業・災害医学会	調所 廣之	日本病態栄養学会 (連)	山田祐一郎
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	日本心臓血管外科学会 (連)	横山 齊	日本認知症学会	秋山 治彦
日本衛生動物学会	関 なおみ	日本リンパ網内系学会	山川 光徳	日本集団災害医学会	小井土雄一
日本交通医学会	花岡 一雄	日本自律神経学会	荒木 信夫	日本小児血液・がん学会	檜山 英三
日本体力医学会	下光 輝一	日本大腸肛門病学会	楠 正人	日本老年精神医学会 (欠)	
日本産業衛生学会 (欠)		日本超音波医学会 (代)	谷口 信行	日本静脈経腸栄養学会	東口 高志
日本気管食道科学会 (欠)		日本動脈硬化学会	佐藤 靖史		
日本アレルギー学会 (連)	永田 真				
日本化学療法学会	清田 浩				
日本ウィルス学会 (連)	勝二 郁夫				
日本麻酔科学会	稲田 英一				

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員 門田会長 飯野・岸・門脇各副会長
 (幹事) 清水・宮園・大江・遠山・池田・稲垣・春日・小池・小室・寺本・岩本・國土・瀬戸・高本・森・奥村・秋葉 (欠席 小西, 里見)

総会 (第 30 回)：齋藤会頭, 高橋準備委員長, 長谷川総務委員長, 村田幹事長

今後もいろいろな国との交流の中で、先生方にいろいろなお願いをすることが多々あろうかと思えます。どうぞよろしくお願いをしてご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長(門田日本医学会長) 横倉先生、どうもありがとうございました。

■議事録署名人

議長(門田日本医学会長) それではこれから議事に入ります。最初に議事録署名人の選出をいたします。議長が指名することになっていますので、私から指名させていただきたいと思えます。まず基礎・社会医学系は日本解剖学会の寺田純雄先生、臨床医学系は日本耳鼻咽喉科学会の小川郁先生、よろしくお願ひいたします。

■次第(議事概要)

議長(門田日本医学会長) それでは、本日この評議員会の議事の概要をお話させていただきます。最初に、第30回日本医学会総会の準備状況を総会役員の方々からお伺いし、その後、平成29年度の年次報告を行います。その際に日本医学会の予算についても報告いたします。

協議事項としては平成30年度の事業計画、日本医学会加盟学会についてお諮りいたします。また、その後、質疑応答の時間をとり、評議員会を終了したいと思います。

なお、この日本医学会の評議員会に引き続き、一般社団法人日本医学会連合の臨時の社員総会を開催したいと思っています。短時間で済むのではないかと思えますが、よろしくお願ひしたいと思います。

■日本医学会長挨拶

門田日本医学会長 議事に入ります前に、私から一言ご挨拶申し上げたいと思えます。

昨年6月、この部屋で高久先生の後任として日本医学会長に選任いただきました。それから半年と少しですが、会長、副会長が大きく変わったということもあり、まず意思統一といえますか、

今の状況をどう判断するのか、今、どういうことがわれわれにとっての課題なのかということで、いろいろと時間を割いて検討している最中です。

まだまだ皆様に満足いただけるようなことができるかどうか別ですが、少なくとも新しい1ページになるような形でやっていきたいと副会長ともども思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。本日のこの司会も初めてのことで、よろしくお願ひします。

■第30回日本医学会総会準備状況

議長(門田日本医学会長) まず、報告事項から入ります。第30回日本医学会総会準備状況の件ということで、齋藤会頭、高橋準備委員長からご報告をお願いしたいと思います。

齋藤第30回日本医学会総会会頭 皆様、こんにちは。会頭を務めます名古屋大学の齋藤です。来年4月の第30回日本医学会総会は、明治35年の第1回から4年ごとに行われているということから、ちょうど120周年目の節目に当たります。約3年前から中部8県の医学部、医科大学、そして県の医師会と密接に連携しながら準備を始めてきました。

また来年の総会は、先ほど少しお話に出ました日本医学会連合という法人が発足してから最初の医学会総会になります。したがって日本医学会、日本医学会連合、そしてもちろん日本医師会に強力なご支援をお願いしたいと考えています。

学術プログラムはほぼ固まりました。きょう後からパンフレットで高橋準備委員長から説明いたしますが、メインテーマ「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」という下に、4つの柱を立てています。4つの柱とは「医学と医療の新展開」、「社会とともに生きる医療」、「医療人の教育と生き方」、「グローバル化する日本の医療」です。このプログラム作成の過程においては各分科会にアンケート調査をしまして、なるべく分科会のご意見を取り入れて、学際的、横断的なプログラムを作っています。ぜひ各分科会の会員が1人でも多くご参加いただければ、大変ありがたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

高橋第30回日本医学会総会準備委員長 皆様

こんにちは。第30回日本医学会総会2019中部の準備委員長をさせていただいています名古屋大学理事の高橋です。少し時間をいただき、現在の準備状況についてご説明したいと思います。

席上配付させていただいた医学会総会の封筒の中に入っているパンフレット等をご覧いただければと思います。まずこの小さなリーフレットの裏を見ていただきますと、会期日程が記載されています。もうご存じかとは思いますが、簡単に確認させていただきます。

本番の学術集会が平成31年の4月27日から29日にかけて、名古屋国際会議場と、徒歩で3分程度の所にあります名古屋学院の白鳥学舎の2つを使って実施いたします。同時に、学術展示を国際会議場と「ポートメッセなごや」で1日前の26日からスタートさせていただきますが、26日から3日間「ポートメッセなごや」において日本内科学会総会が開催されますので、日本内科学会と連携して学術展示を行いたいということです。

約1か月前の春休みを使いまして3月30日から4月7日まで、これも「ポートメッセなごや」で、最先端の医療や医学について市民向けの展示を行いまして、実際にいろいろ触れていただく展示を企画して、家族連れの方にたくさん参加していただこうと思っています。

さらに1か月早く3月2日から2か月にわたって、名古屋大学の博物館で医学史展を開催し、メインのプログラムはこの4つの柱で進めていくという状況になっています。

リーフレットを1枚開いていただきますと、真ん中に特別プログラム演者が載っています。開会講演、閉会講演、記念講演で、現在ご承諾いただいた先生方のお名前が記載されていまして、このような方々に開会式、閉会式、記念講演をしていただく予定でいますので、ぜひご参加いただければと思います。

続きましてB5判のパンフレットがありますが、先ほど齋藤会頭からもありましたようにプログラム案はほぼ決定していまして、アンケートを実施した結果、先生方から本当にたくさんの貴重

なご意見をいただきましたので、そのアンケートのご意見をできるだけ取り込む形で、分野横断的なシンポジウムを八十数セッション企画しています。まだこれから少しシンポジウムが増えたり調整などがありますので多少変更がありますが、ほぼ確定したプログラムをここに載せていますのでご参考いただければと思っています。

国際会議場で主にこうした学術シンポジウムを、名古屋学院の白鳥学舎で主に産業医セッションを行うという形でプログラムを組んでいます。同時に、名古屋駅前の「ウインクあいち」という会場で市民公開講座も並行して行う予定ですので、ぜひよろしく願いいたします。

本日はあと2つお願いがございます。1つは、今回の第30回総会から日本医学会総会奨励賞というものを企画しました。

これは日本医学会分科会および医師会に所属する先生方のうち、平成31年4月1日時点で40歳以下の先生方で、平成27年以降、過去4年間で主に国内で発表した研究に対して、優れた研究に奨励賞を授与したいということです。生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系の5領域で、3名ないし4名ぐらいの奨励賞の候補を選出する予定ですので、各分科会、あるいは医師会の方から1、2名、優れた若手の研究者を候補者としてぜひ推薦していただければと思っています。当日医学会総会で発表していただいて、各領域別に1名と、さらに最優秀奨励賞を選出して、総会の際に表彰したいと思います。

3月になりましたら各分科会にご案内を申し上げますので、若手の優れた研究をされている方をぜひ推薦していただければと思いますので、よろしく願います。

あとは登録の件のお願いですが、先ほど齋藤会頭からもありましたように、2月の1日から分科会応援早割という形で登録を開始しています。このB5判のパンフレットの表紙に載っていますように、2月1日から10月31日までの早割の間は25,000円の登録料ということです。当日は35,000円になりますが、10月31日までに登録していただくと25,000円でできますので、ぜひ

会員の方にご周知いただければと思います。

産業医も2月1日の登録開始と同時に開始していますので、産業医のさまざまなセッションにご出席の予定の方は、すでにWEB上を通じて登録できると思いますので、その点も含めてよろしくお願いいたします。

少し長くなりましたが、以上、総会についてご説明させていただきました。ぜひ分科会の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。よろしくお願いいたします。

2017(平成29)年度日本医学会年次報告

議長(門田日本医学会長) では次に2017(平成29)年度日本医学会年次報告に入りたいと思います。今、第30回日本医学会総会のお話がありましたので、この資料1の3ページから見ていただきたいと思います。

2番目として、日本医学会幹事会がありますが、これは先ほどこの評議員会の前に開かれました。その次の日本医学会定例評議員会、この会のことです。

日本医学会臨時評議員会というのは、昨年6月15日に日本医学会連合の会長、副会長から、日本医学会の会長、副会長3名を選任し、連合の副会長1名と理事の皆様、さらには監事の皆様を合わせて、日本医学会では幹事とすることでお諮りし、承認していただきました。それが今の執行部です。これが第4の臨時評議員会のお話です。

5番目、日本医学会総会あり方委員会、これはまた後ほど齋藤委員長よりご報告いただきますが、平成27年度から今まさに変化している医学・医療の領域の中で、医学会総会のあるべき方向性を再度検討しようということで立ち上がり、本日皆様の前に報告されるということになっています。

6番目、日本医学会シンポジウム。毎年2回春と秋にシンポジウムを開催しており、春は「医療における“賢明な選択(Choosing Wisely)”を目指して」のシンポジウム、11月には「がんゲノム医療の到来」ということで開きました。そしてその抄録、あるいはDVD等をお配りし、また日本

医師会のホームページのオンラインライブラリーに配信をしています。

7番目、日本医学会公開フォーラム。これは主に一般の方々に対しての医療のフォーラムという形で開いていますが、これも春、秋の例年2回開催しています。春は「生活習慣とがん—がんを予防し健康寿命を延ばそう!—」というテーマ、秋は「感染症とがん—感染症対策でがんを予防しよう!—」というテーマで2回開きました。このシンポジウム、公開フォーラムにつきましても、企画委員会委員の先生方にお骨折りいただき企画をしていただいています。

8番目、日本医学会医学用語管理委員会。これは医学会では非常に古い委員会として、用語をきれいに整理するというで始まっています。今は医学用語辞典のWEB版が出ていますが、これについて常に問題点を解決し、新しいことに向かっていろいろな形で準備を整えているということです。

9番目、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ。実はこれは新しく昨年の9月に立ち上げました。どういうことかという、後ほども触れますが、日本医学会の分科会ではありませんが、日本遺伝学会という遺伝の学会があります。そこで今までずっと長い間使ってきた「優性遺伝」、「劣性遺伝」という単語。「優性」、「劣性」という単語そのものが患者さん等の優劣をつけるような勘違い、あるいは誤解を招くということから、これは変えるべきではないだろうかという話が出て、一気に公表されて、それを「顕性」、「潜性」という形に変えるというような案だったのです。

これにつきましても、われわれにすれば全体に非常にかかわることで一学会の話ではないということから、こういうやり方はどうなのかなということ。類似のことはこれから先も発生するので、特にこの件についてはワーキンググループを立ち上げて、使う単語をどうするかということもさることながら、こういう場合にどういう考え方をし、どういう手順で行っていくのかを含めた検討を行い、公的に認めるという形をもう少し考えていかなければならないのではないかということで、

立ち上げたワーキングです。今はまだまさに検討していただいているということです。

10 番目、日本医学会分科会用語委員会。これは分科会の皆様それぞれのところで少々違いますが、また類似の問題も持っている。それを一堂に会して、いろいろな情報を交換するという委員会です。

11 番目、日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会。これは毎年この医学賞と医学研究奨励賞を選出していますが、今年度は3名の医学賞、15名の医学研究奨励賞の方を選出し、賞を授与されたということです。

12 番目、日本医学会加盟検討委員会。これについては後ほどまたご報告いただきますが、年に1回審査基準に基づき加盟していただくかどうかを検討していただいている委員会です。

13 番目、「遺伝子・健康・社会」検討委員会、14 番目「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会というのがあります。昨今非常に話題になっていますが、遺伝子検査をどのように考え、どう行っていくのかについて検討していただき、あるものについてはやはり施設を限定すべきではないかという意見で、今までは認定、登録という形で行っています。

15 番目、日本医学会利益相反委員会。これは少し前から非常に話題になり、利益相反ということではこれでしっかりと行っていかなければということで、今、曾根三郎委員長を中心に行っています。

日本医学雑誌編集者組織委員会。これは北村聖先生が委員長で本年度は3回の委員会が開催されるということです。

17 番目、研究倫理教育研修会。COIを含むもの、そのほか医学倫理、雑誌編集の問題も含めて、3つの委員会が合同で研修会を開催しています。

18 番目、移植関係学会合同委員会。これは厚生労働省からの依頼で日本医学会が中心になって行っていますが、最近あまり大きな話題はありません。

そのほかに行っていることとして19番目、『日本医学会だより』を発行しています。これは18ページ以降に載っていますが、こういう形のもの

を発行してホームページに公開しています。

そのほか、情報発信をしているということです。

21 番目、一応今回の開催数を書いています、これだけのものが開催されたということです。

その他としては、ここにありますように日本医学会分科会一覧等をお届けしていました。日本医学会総会一覧は今後ホームページで公開していくという形にしています。

ということが年次報告です。引き続きまして、日本医学会予算ということでお話しします。

29年度の日本医師会の予算の中で、日本医学会の支出分について報告します。資料の6番を見ていただきたいと思います。1枚のものですが、ここに挙げていますように予算額としては1億2,000万円強の予算ということになっています。今、日本医師会全体としても予算というのは徐々に減額されている中、日本医学会については昨年と全く同じ額の予算を頂戴しているということです。次年度も、恐らく同額の予算をいただけるのではないかと考えています。

よろしいでしょうか。今一応の予算も含め、年次報告をさせていただいたということです。

2018(平成30)年度日本医学会事業計画

議長(門田日本医学会長) それでは協議事項に移りたいと思います。

協議事項の1は、2018(平成30)年度日本医学会事業計画の件ですが、これは資料の冊子体の2で、日本医学会事業計画です。これを見ていただきますと、実は本年度行ってきたことと同様のことがずっと書かれています。ほぼ年次を通じて行っている事業を中心に行っていますので、このような形でやらせていただくということでご了承いただければと思いますが、よろしいでしょうか。一拍手—

ありがとうございました。

2017(平成29年度)日本医学会加盟学会

議長(門田日本医学会長) それではその次、協議事項の2、2017(平成29)年度日本医学会加盟学会の件については清水委員長からご報告をお

願いたいと思います。

清水加盟検討委員会委員長 平成29年度の日本医学会加盟学会の件について、お諮りしたいと思います。

平成29年度は5月15日から7月31日までの間に公募し、27の学会から加盟申請がありました。加盟検討委員会には13名の委員がおりますが、まず書面審査を行い、昨年12月6日に11名の委員が集まり、会長、副会長もオブザーバーとして参加するという形で第2次審査を行いました。

十分な議論を行いまして、特にその学会の学術性がどうか、国際性があるか、社会への貢献度、さまざまな利益相反や倫理教育というものがしっかりされているかというようなことを、それぞれの申請学会について議論いたしました。最終的には2/3以上の出席委員の賛成が必要ということで、選ばれたのは1学会で、お手元の資料にございますように日本再生医療学会となります。

日本再生医療学会は、前身の細胞療法研究会が平成4年に設立され、その後平成13年には日本再生医療学会、その後平成24年に一般社団法人格を取得し、会員数が5,792名、医師数が約3,500名です。年に1回3,500~4,000名集まる学術集会を開いています。学術雑誌も英文誌、和文誌もありまして、また国際学会を主催するという経験もあります。収支や先ほど申しました研究倫理・研究者倫理に関する検討、利益相反に関する検討というのが十分されているということで、委員会としてはお認めした次第です。

この定例評議員会にお諮りしたいと思います。

特にご異論ありませんでしょうか。それではお認めいただいたものとさせていただきます。

—拍手—

本日お認めいただきましたので、3月20日に開催されます第12回日本医師会理事会へ報告していただき、最終的にそこで機関決定ということになっています。それまでは本日の結果については外に出さないようにしていただくよう、付け加えておきたいと思います。以上です。

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます

した。なお、非常にたくさんの学会が入会を希望されているということもあり、いろいろな問題を医学会の中で、あるいは医学会の中だけでなく、情報共有の面からもそれを近代的にどうしていくのがいいのだろうかということを少し考える時期ではないかと思っています。今の委員会の条件で行っていますが、このまま踏襲するのか、あるいはまだ少し改善策を考えられるのかということを検討してほしいと、委員長、委員会にお願いしていますことを追加しておきます。

日本医学会総会あり方委員会報告

議長(門田日本医学会長) では、その次にまいりたいと思います。「その他」ということです。その1つが「日本医学会総会あり方委員会」報告ということで、これは齋藤委員長におまとめいただきましたので、ご報告をよろしく願います。

齋藤日本医学会総会あり方委員会委員長 資料7を、ご覧いただきたいと思います。

日本医学会総会のような医学・医療全体を網羅する学術集会というのは、欧米には例がなく日本にユニークなものです。また最近、医師・医学研究者を主な参加者とするとともに一般市民を対象とする講演会・展示も行い、社会に開かれた学会となっています。

これまで日本医学会総会を開催するためには莫大な時間とお金とエネルギーがいるわけで、本当に必要なのかという議論はいつもありました。それで平成2年に日本医学会総会あり方委員会報告が出ています。当時は、分科会の数がまだ82の状況でした。それ以後は100を超える分科会が、今のお話のように増えてきています。また、平成2年当時からは医学・医療の発展も当然ありますし、取り巻く環境も大きく変わっていることから、もう1度本委員会を設置しようということが、平成27年の夏の日本医学会連合の理事会で決定されました。

平成27年の8月から今年の2月まで合計6回の日本医学会総会あり方委員会を開いてきて、メンバーは1ページ目書いてあります。同時に、各分科会にアンケート調査を行いました。

この報告書は、委員会における議論とアンケート調査の結果から抜粋してまとめたものですが、まず各分科会の先生方にはアンケート調査にご協力いただきまして大変感謝しております。

2ページ目、かいつまんでいきますと、現在、医学会総会がどのように認識されているかということ、後でこのアンケートを見ていただければ分かりますが、認識度が高いとは言えません。では医学会総会の理念や目的、意義はどういうものかということ、これについては日本医学会にとっても分科会にとっても永遠の課題といえますか、社会状況の変化に伴って常に検討しなければいけないというわけです。

結局、議論した結果の基本的な理念が3ページ目の上のほうに書いてありますが、医学・医療がどんどん細分化される中で、各分科会が4年に1回ぐらいは一堂に会してface-to-faceで議論することに意義があるのではないかということ、

その目的として大きく分けると、広く分野横断的に医学・医療をめぐる課題の討議と、もう1つは医学・医療の現状、課題、将来像を社会へ発信して対話すると、つまり、4年に1回ぐらい社会に大きいデモンストレーションをする機会だということ、

ところが一方、アンケートの意見の中にもありますが、勤務医にとってこれ以上学会が増えるのはもう困ると、それから、お金をかけて規模が大きだけでは問題ではないかという意見もあります。

参加者の構成と規模というのが3ページ目の下のほうなのですが、平成11年以来ずっと調べますと、大体2万人を超える規模で8割以上が医師・歯科医師・医学研究者です。一方、その中に卒後数年までの若い年齢の方がきわめて少ないということが明らかです。

また、コメディカルの参加というのもやはり1割以下です。これは現在の医療を考えると、チーム医療や多職種協働ということが盛んに言われているにもかかわらず、この過去15年間ほとんどコメディカルスタッフ、コメディカルの参加というのは変わっていません。

もう1つ参加費の所に書いてあるのは、参加費が高すぎるという批判が昔からあります。先ほどの事前登録でも25,000円ということですが、特に医学会総会に参加される方の5~6割が日本内科学会の会員なのです。日本内科学会はもう何年も昔から参加費は1万円で行っています。その理由には秘密があり、会場は1会場だけ、しかも参加する人数が25,000人とか30,000人です。それから、毎年同じ時期にあるので宣伝は必要ないということ、

それに対して、医学会総会は4年に1回なので広報・宣伝費用が莫大にかかるのか、会場数も30ぐらい要る、あるいは市民へのインパクトを与えるために市民展示、市民公開講座をやるのですが、市民からお金を取ることはできないのでどうしても持ち出しになってしまうというようなこと、

いずれにしても若い勤務医の参加費を安くするというのは、分科会も医師会も日本病院会にもアンケート調査をしたのですが、皆様の考えです。

5ページ目の下、役割なのですが、やはり各分科会に積極的にプログラムに関与していただくということで、来年の場合もなるべくアンケートの調査の結果を取り入れています。

7番目は活性化のための方策なのですが、これは言うまでもなく2つしかないわけで、魅力あるプログラム、もう1つは単位を取得できるようにするという事です。単位としてはそれぞれの分科会、専門学会の単位もありますし、産業医の単位、あるいは日本医師会生涯教育制度の単位があります。

最後は、アンケート調査でグローバル化についてどう思うかということなのですが、アジアに開かれた学会にしようと思っても言葉の関係などで、英語のみのセッションというのはまだまだ難しいだろうということがあります。

以下、分科会用のアンケートが18ページにわたって付いていますが、それをぜひ各分科会のほうへフィードバックしていただきたいと思います。以上です。

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。今回の会頭の齋藤先生が委員長ということ

で、検討された内容が今回の企画の中にいろいろと入っているということだと思います。

ここで何かご質問はございますか、よろしいですか、ありがとうございます。

冒頭に言いましたが、今のタイミングでこの医学会総会というものを見直そうということで、先ほどのようなご報告をいただいたということです。

第31回日本医学会総会

議長(門田日本医学会長) 次にまいります。「第31回日本医学会総会について」。ただ今は、あと1年ありますが第30回の総会のご報告をいただいているところで、本評議員会では次期の総会の会頭、ならびにその会場を決めるということになっています。

先ほどこの評議員会の前に開催した幹事会でもご報告いたしました。現在第31回日本医学会総会の候補としては、東大の大学院医学系研究科長の宮園先生から日本医学会長宛てに立候補に関する文書が届いています。それによりますと、第31回日本医学会総会開催につきましては、東京大学を中心に近隣大学や基幹病院と共に春日先生の下で連携し企画・運営に当たりたいという内容のものが届いているということです。

以前は、複数の候補地が出たりしたことがありましたが今回は東京地区ということで、幹事会ではこの東京を評議員会にぜひ提案したらどうかということでした。本日ここで決定しなければなりません。第31回日本医学会総会は春日雅人先生を会頭として東京で開催するということ。この評議員会で決定していただけるかどうかということですが、いかがでしょうか。もしよろしければ拍手をお願いいたします。—拍手—

議長(門田日本医学会長) ありがとうございます。皆様へ支持をしていただきましたので、この東京の地で春日先生を会頭に第31回日本医学会総会を開催することを決定したいと思います。

それでは急にですが、春日先生にご挨拶をお願いします。

春日第31回日本医学会総会会頭 ただ今、第31回日本医学会総会の会頭にご承認いただきま

した春日です。どうぞよろしくお願いいたします。

会期と会場ですが、学術集会に関しては2023年の4月21日から23日、東京国際フォーラムを予定しています。学術展示は同じく4月の20日から23日、東京ビッグサイト。市民展示は4月の15日から23日まで、東京ビッグサイトを予定しています。

ただ今ご発表がありました日本医学会総会あり方委員会の報告を踏まえ、そして先生方のご協力を得まして、意義のある医学会総会にしたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

議長(門田日本医学会長) それでは春日先生、第31回日本医学会総会会頭をよろしくお願いいたします。

遺伝学用語についてほか

議長(門田日本医学会長) 順調に進んでおりまして、最後の議題です。それは「遺伝学用語についてほか」という議題です。ここで皆様方のご意見、あるいは何か名案があれば教えていただきたいと思っている件です。

先ほどワーキングの立ち上がりの話をしたと思いますが、遺伝学の用語のところでは優性、劣性そのものが、数学会から一気に公表されるというような形になり、現場全体とすれば混乱に陥ることが発生するという事は先ほども申しましたし、この件については、医学会としてもワーキンググループとして方向性を含めて、少し検討してほしいということをお願いしているということをお申し上げました。

そこでこれについて、たまたま今回は1つの事象として優性遺伝、劣性遺伝という単語が挙がってきましたが、元と言いますか、私が意識的に過去のことを思ってみれば、大きく変わったことがあったのは医師法です。21条の「異状死」についてどう考えるかという議論が出てきたときに、日本医学会あるいは日本医師会を含めて、全体のディスカッションよりも先に専門とする学会からの意見という形で取り上げられ、しかもそれが社会にも大きな影響を与えたということがありました。

そのようなことから考えて、これはいつどうい
う状況で発生するかは分かりませんが、そこを専
門に行っているところからすればおかしいと思
うことが出てきます。それを1つ何か変えるとい
うことにすればいろいろな形でそのほかの学会、あ
るいは学会だけではなくさまざまな所に影響が出
る可能性があります。これをどのようにこれから
対処していくかということ、ある程度方向を決
めておかなければいけないだろうと思いますし、
この辺りについて何か良い案があれば仰って
いただきたいという気がします。

少なくとも問題というのは、幅広く影響の出
る用語にしる、あるいはそのほかのことにしる、
それを社会一般に公表するのであれば、少なく
とも医療界の中で一度前もってある程度方向
性を検討し、ある程度の合意に達したことにつ
いて社会に流すというような決まりを作ってお
くということをしていかないと、類似のことが
発生する危険性があるように思います。です
から、いい案があればぜひ提案していただ
きたいと思うのです。

日本医学会側からすれば、何かの問題が発生
してそのほかの所の影響も出るようなもので
あれば、やはり日本医学会なりあるいは共通
するいろいろな学会なり、複数のところで検
討し、そして最終的には日本医学会全体で
合意に達した、あるいは共通に認識できる
範囲内でそれを行っていくというような形
で動く。そういう手順をお願いしたいと、
問題は問題だから早く世の中に出そうと

いうことは分かります。しかし、その前に全
体で足並みをそろえる必要があるのではない
か、ぜひそれをお願いできないだろうかとい
う気持ちがあります。

その辺りについてご意見がありましたら仰
っていただきたいと思います。いかがで
しょうか。

よろしいですか。そういうお願いをさ
せていただくということに対して大丈夫
でしょうか。言われても困るという
内容があればまた仰っていただ
きたいと思います。

きょうはほとんどの分科会の皆様に出
席していただいていますので、各分科
会の中でこういう事象について学
会内部でも話題にいただき、でき
るだけこういうことに協力して
いただきたい。少なくとも何か
があれば医学会の事務局に連絡
していただいて、こちらとしても
できることがあればぜひ一緒
に考えていきたい。時間をかけ
ずにできることがあればしたい
と思いますので、そのご協力
はひとまずお願いしたいと思
います。本日はお願いだけにな
るかもしれませんが、ぜひよろ
しくお願いいたします。よろ
しいでしょうか。ありがとうございました。

本日予定しました議事はこれですべて
終了ということになりますが、今
までの議事の内容、あるいは何か
そのほかにご意見等ございました
ら仰っていただきたいと思
います。では、本日の定例評
議員会は皆様のご協力で予定
よりもかなり早く終わることが
できました。ありがとうございました。